



福島医大病院ニュースレター

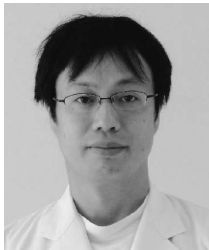
編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

第10号

発行日 平成21年11月20日

〒960-1295 福島市光が丘1番地/TEL (024) 547-1111(代) ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

患者さんとそのご家族の皆様へ —電子カルテをご存知ですか?—



医療情報部長 **竹内 賢**

福島医大病院では、平成15年にそれまでの紙でできたカルテから、電子カルテへの切り替えを行いました。今では皆様にもすっかりおなじみになったと思う電子カルテですが、この電子カルテの維持・管理・改修を行うことが、平成17年に設立した医療情報部の役割の一つです。

全国的に見ても普及が進んでいる電子カルテですが、紙のカルテの頃とどこがどのように変わったのかがぴんと来ない方も多いと思います。実は全国的な電子化への流れの背景には、医師主導の医療から、医療者と患者さんの共同作業としての医療への大きな方向転換があります。これまで紙やフィルムで提供されていた検査データが、

迅速に診察室まで届くようになったことで、医療はより解りやすく効率のよいものになり、また医療スタッフは一人一人が担当の患者さんに係わる情報を共有して、皆で治療に係わることで、医療はより効率がよく安全なものになります。もちろん薬剤の誤投薬や、禁忌情報の事前チェックなどは、情報技術の最も得意な分野ですから、情報化によって医療はより安全なものになります。更に今後は地域とも情報連携し地域の医療機関をネットワーク化することで、病気の発症から退院後まで、一貫してサポートする質の高い医療を実現するために、電子カルテは大きな力を発揮することでしょう。残念ながら医療は患者さん一人一人の体質や病状が異なるために、画一的に標準化することができず、医療分野の情報技術化には、まだまだ多くのハードルがありますが、医療情報部は医療現場と電子カルテの開発会社との架け橋として、よりすぐれた診療基盤を医療スタッフや患者さんに提供できるよう、これからも努力していきます。

第10号のなかみ

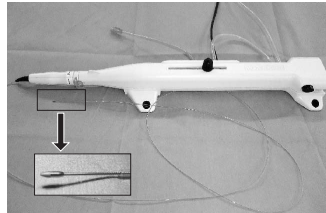
- 2ページ・・・○総合周産期母子医療センター「母体・胎児部門」のご紹介
- 専門看護師・認定看護師の紹介
- 第1回学会認定自己血輸血看護師になって
- お知らせ ～クリスマスキャンドルサービス～
- 3ページ・・・○病気のまま知識「頻尿、夜間頻尿について」
- 小児科外来の定期訪問 ～日本ホスピタルクラウン協会～
- 「きてください 院長さん」投書箱から
- 栄養士からアドバイス
- インフルエンザに負けない体づくり—
- 4ページ・・・○市民公開講座のおしらせ
- ～わかりやすい血液の病気～
- 病院ボランティア「けやきの会」りれー通信 8

循環器内科・冠動脈疾患の新しい治療法

循環器・血液内科学講座 **中里 和彦**

循環器内科で扱う病気は多岐にわたりますが、今回は狭心症の治療についてご紹介いたします。心臓を養う血管（冠動脈）は、休むことなく動き続ける心臓の筋肉に栄養や酸素を供給します。この血管が動脈硬化などで狭くなると、心筋に十分な血液が供給できなくなり、このときに胸痛を感じる疾患が「狭心症」です。

冠動脈の狭窄に対する物理的な治療には冠動脈バイパス術とカテーテルによる冠動脈形成術があります。当科で実施しているのはカテーテル治療です。この治療法は約30年前にバルーン（風船）を用いて狭い部分を拡張する方法からスタートし、その後様々な治療器具が開発されました。その一つにロタブレータ



ロタブレータの操作レバーと切削球の拡大写真(左下)

という、表面にダイヤモンド粉末の付いた小さな球を高速回転させて、硬い動脈硬化病変を削る器具があります。ロタブレータを用いるには施設基準がありますが、当院でも今年から適応のある患者さんの治療に使用できるようになりました。

清潔と快適をクリエイトする。



病衣・付添寝具

〔ご利用・お問合わせ先〕

株式会社 同仁社
医大リネン室

電話 024-547-1111
内線 3081

マチのほっとステーション

LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店(エレベーターホール隣)
ローソン福島県立医科大学店(福利厚生棟内)

総合周産期母子医療センター「母体・胎児部門」のご紹介

産科婦人科学講座 **藤森 敬也**

総合周産期母子医療センター・母体・胎児部門は集中治療室（MFICU）として6床で運営されています。MFICUは産科一般病棟と合わせて産科で管理され、福島県内の周産期医療システムの中核として、地域周産期母子医療センター（5施設）や周産期医療協力施設（6施設）と連携を図りつつ、高度な周産期医療を県民に提供しています。更に、県内の周産期医療情報の管理や、学生、研修医、看護師、助産師に対する高度な周産期医療の教育も行っております。実際には、胎児well-being評価、早産防止・治療、重症合併症妊婦の全身管理を関連診療科

と協力しながら運営しております。児の予後に与える影響は出生前からの胎児管理が重要であり、出生前診断（羊水あるいは臍帯穿刺による遺伝学的、生化学的評価）から、胎児薬物治療、胎児輸血なども行われています。近い将来にはさらに高度な胎児治療を必要とする症例にも対応できるよう準備しています。また、研究分野においては胎児生理学・内分泌学研究や早産メカニズムの解析で国際的評価を得ています。



専門看護師・認定看護師の紹介

当院では現在下記の専門看護師（候補生含む）・認定看護師が活動しています。

それぞれが各分野の専門家として、現場の看護師のサポーターとなり、患者さん・ご家族のためにより良いケアを

* 専門看護師：	
小児看護	1名
がん看護	2名
精神看護	1名
* 認定看護師：	
皮膚・排泄ケア看護	1名
がん性疼痛看護	1名
不妊症看護	1名
集中ケア	2名
救急看護	2名
感染管理	2名
緩和ケア	1名
がん化学療法	1名
摂食嚥下障害看護	1名
太字は今年増えた分野です！	

一緒に考え、楽しく実践していけるように努力していますので、是非、私たちをご活用ください。

《専門看護師》は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するために、特定の専門看護分野の知識・技術を深め、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかります。

《認定看護師》は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかります。



第1回学会認定自己血輸血看護師になって

看護技師 **後藤美代子**

私は輸血・移植免疫部に勤務し、平成21年4月1日に学会認定自己血輸血看護師に認定されました。

自己血輸血とは手術前に必要量の自分の血液を貯血しておき手術に備える方法です。利点は自分の血液を使用するので副作用も少なく、また、高齢社会で血液不足が予想される現在、理に適った方法と言えます。本資格は自己血の貯血とその管理を安全且つ適切に行うための知識・技術の習得と、貯血をする事で患者さんが手術への意欲に繋がられるように援助することを目的としています。

貯血を行う際は特に、血管を選ぶことに神経を使います。そして、患者さんの不安を払拭できるように常に笑顔と安らげる環境作りを心がけています。「病院に来て初めて笑いました」という言葉に励まされたり、退院時に元気なお姿を拝見したり、業務を通して充実した日々を送っていることに感謝しています。

こうした日々の業務を遂行できるのも資格取得が私の自信に繋がっているからです。今後も初心を忘れず業務に邁進したいと思います。

お知らせ

毎年恒例の医大混声合唱団によるクリスマスキャンドルサービスが下記日程で開催されます。キャンドルライトの中で響く歌声をお楽しみください。



○日時 平成21年12月19日（土）
午後4時から午後5時まで
○場所 病院玄関ホール





泌尿器科学講座 **山口 脩**

私たちが朝起きて寝るまでに排尿のためトイレに行く回数は水分摂取量や生活環境によって影響されますが、おおそ一日7回までが正常とされています。ところが、排尿回数がさらに多くなると「トイレが近くなった」と感ずるようになります。これが「頻尿」と言われる自覚症状で、日中の排尿回数が8回以上あることが目安です。

一方、夜間睡眠中にトイレに何度も起きることが夜間頻尿です。健康な方でも夜トイレに1回起きる人は多いと言われています。しかし、夜間排尿の回数が一晩2回以上になると、睡眠障害を始めとして種々の健康障害を起こすことが指摘されています。

ここで大切なことは、「頻尿や夜間頻尿が前立腺肥大症あるいは過活動膀胱のような泌尿器科の病気が原因となっている」ことです。中高年の方でこれらの症状をお持ちの方はまず泌尿器科専門医にご相談下さい。

笑顔運ぶホスピタル・クラウン ～小児科外来の定期訪問が始まりました～

サーカスや遊園地で笑いを振りまく道化役としておなじみの「クラウン」ですが、特に病院で闘病中の患者さんを楽しみパフォーマンスと笑いで元気づけたいと活動されているのが「ホスピタル・クラウン」の方々です。

日本ホスピタルクラウン協会には、これまで小児科病棟の慰問に数回お越しいただきましたが、今年10月からは毎月第一・第三木曜日に小児科外来待合室へ定

期的に訪問していただけることとなりました。待ち時間を少しでも楽しく、笑顔で過ごせるように、クラウンが次々と子ども達に声をかけ、一緒に遊んだり、おしゃべりしたりしています。



クラウンのピッピーさんが、バルーンでクマやキリンを作ってくれました

「きいてください 院長さん」 投書箱から



最近の投書で当病院に来院される皆様をお願いしたいことがありますので、ご紹介させていただきます。

外来駐車場を増設したことにより、正面入口の横断歩道を利用する方が増えております。そのため、ご通行される方から「スピードを減速して進入してくるものの何度も冷や汗をかいた」という投書が寄せられました。また、「病院近くになると、スピードを出しすぎている車がたくさんいて驚きました。ゆっくり運転して来ましたが、次々と追いこされて怖かったです。」という運転マナーに関する投書もありました。

職員、学生等に対しては、交通規則の遵守と交通マナーの徹底を繰り返し指導しているところですが、来院される皆様も車の運転には十分に気をつけていただきたいと思います。

特に、病院敷地内は体の不自由な方や車イスを利用されている方が多数おいでになりますので、敷地内での最徐行をお願いいたします。



栄養士からアドバイス

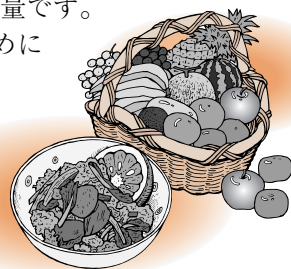
「インフルエンザに負けない体づくり」

毎日寒い日が続くようになっていの中で、インフルエンザが流行する季節となりました。風邪は万病のもとといわれるように、他の病気を呼び寄せる原因ともなります。インフルエンザの重症化を予防する体作りをするために、食事を見直してみましょう。

昨年のノーベル医学・生理学賞を受賞したフランスのリュック・モンタニエ氏によると、「新型インフルエンザの予防には、ワクチンが最も有効だが、抗酸化作用のある野菜や果物を摂取することが大切だ」ということです。野菜は一日に400～500g、量の目安とし

て両手に2杯以上、色の濃い野菜はその半分ぐらいは摂りたいものです。果物は一日にリンゴ1個、または小さいミカン3個ぐらいが適量です。

抵抗力のある体を作るためにも、食生活の見直しをしてインフルエンザの重症化を予防しましょう。



市民公開講座のおしらせ ~わかりやすい血液の病気~

白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器腫瘍の治療成績は、分子標的治療薬の登場やミニ移植など移植医療の進歩により飛躍的に向上しています。

12月5日(土) コラッセふくしまにて市民公開講座「わかりやすい血液の病気」を開催いたします。第一部では福島県内の専門の医師が最新の診断技術や治療法をわかりやすく解説します。第二部では当科で移植治療を受けた患者さんの会である「雪うさぎ10西の会」もジョイントし、移植体験談などもお話していただく予定です。これから移植治療を受ける予定の患者さんの参加もお待ちしています。また、血液疾患の治療には高額な医療費を要することもあります。医療費のサポート制度の活用方法などについても専門のソーシャルワーカーの方からわかりやすく解説していただく予定です。

参加ご希望の方は、11月30日(月)までに血液内科外来または10階西病棟にご連絡いただくか、事務局Eメール(hematology.fukushima@gmail.com)にて申し込み下さい。

市民公開講座
「わかりやすい血液の病気」

日時：2009年12月5日(土) 13:00~16:00
会場：コラッセふくしま 5F研修室
福島市三河南町1-20 TEL 024-525-4089

PROGRAM

13:00~14:30
血液の病気セミナー
司会 福島県立医科大学 循環器・血液内科講座 小川 一英 先生
講演1.「血液の病気について」
財団法人仁会医学研究所北福島医療センター 血液内科 甲斐 徹幸 先生
講演2.「血液の病気の治療」
財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院 血液内科 岡本 正俊 先生
講演3.「骨髄移植」
福島県立医科大学 循環器・血液内科講座 松本 眞人 先生

14:30~14:45
休憩

14:45~15:30
血液の病気と上手に付き合う
司会 福島県立医科大学 循環器・血液内科講座 野地 秀義 先生
特案1.「患者さんの体験談」
特案2.「患者と医療従事者の連携」
特案3.「医療制度をうまく活用する」

15:30~16:00
Q & A
皆様の悩みや疑問についてお答えいたします

16:00
閉会の言葉
福島県立医科大学 循環器・血液内科講座 小川 一英 先生

●参加希望の方はお早めもしくはE-mailにて必須事項を明記の申し込みください。
●事前にご質問のある場合はお早めE-mailにてお問い合わせください。
なお、お時間の都合上頂きました質問にお答え出来ない場合もございますので予めご了承ください。

市民公開講座事務局：福島県立医科大学 循環器・血液内科医局内
E-mail：hematology.fukushima@gmail.com

共催
公立大学法人福島県立医科大学 財団法人仁会医学研究所北福島医療センター
財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院 雪うさぎ10西の会
ノバルティスファーマ株式会社

病院ボランティア「けやきの会」 りれー通信 8

笑顔で接するボランティア 安齋 幸子

医大病院が病院ボランティア募集を始めたのは、平成10年の初め頃と思います。当時、医療支援としてのボランティアへの関心は高まり、十代から七十代の幅広い世代の方が大勢「外来患者の手助けをする」という目的で集まりました。

病院内は広いうえ、窓口がいくつもあり、初診の方や高齢者の方は戸惑いがちの方が多いので、私達ボランティアは緑のエプロンを着けてロビーに立ち、笑顔で挨拶をして緊迫した空気を和ませ、車いすの介助や受診科への案内を自発的に手助けするようにしています。

ボランティアは、自発性・無償性・公共性・先駆性が基本と言われています。患者さんに心強い援助となるよう進んで参加するとともに、その場限りの活動に

終わることなく、自分達の活動しやすい環境やボランティアの在り方について考え、皆で話し合いを持ち、医療従事者の方々の中で、一人ひとりの意思を大切に活動しています。

活動の心構えで大切なことは、自分の身の回りから手掛けること、秘密を守ること、相手への心配りをし、無理をしないで絶えず学ぶ姿勢で、生活に合わせた活動を維持させることと思います。また、ボランティア活動は、病院と地域を結ぶことにも大切な役割を果たしているのではないかと考えています。

これからも体に気を付けて続けていきたいと思っています。



こころときめいて、くらしかがやいて。

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**
窓口営業時間：平日午前9時から午後3時
電話 024-548-5331 (受付時間：平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時~20時
土日祝 9時~19時

アメリカシアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやパストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

※次号は、2月中旬頃に発行いたします。